

## コカマキリ

(学名: *Statilia maculata*)

(写真・文 吉岡義雄)

【カマキリ目カマキリ科】



▲ メスの成虫。意外と体色はバリエーションに富み、写真のようなこげ茶色以外にも黄色みがあったものや赤みがあったものなども見られる。いずれも地上で目立たない保護色となる。

雑木林、草原、畑地、人家の庭など、様々な環境に生息する全長6cmほどのカマキリです。日本にはヒナカマキリなど、本種より小さいカマキリも生息していますが、人目につきやすい環境で見られるカマキリの中では本種がもっとも小型であることからこの名がついたと考えられます。体色はほとんどの場合褐色ですが、稀に緑色型も見られます。

只見での孵化は6月上旬ですが、幼虫は草の下に隠れるように生活しており、意識して探さないとまず目にすることはありません。成虫は8月下旬に出現し、羽化してしばらくは雌雄ともに夜間によく飛翔します。この時期に自販機や灯火の下を探すとガなどを捕食する姿が見られます。

メスは卵巣の発育が進んで身重になると飛翔しなくなりますが、メスを探して飛翔するオスは9月以降も灯火に集まります。肌寒い日が増える9月中旬以降の日中は日当たりのいい道路に出てきます。日光浴をすることで、体を温めるためであると考えられます。また、身軽なオスはクズやイネ科草本の上にもよく姿を見せます。

雌雄ともに11月まで活動します。オオカマキリやハラビロカマキリなど、よく似た環境に生息する中大型のカマキリと比較してオスが長寿ですが、その理由はよくわかっていません。

### 只見町ブナセンターからのお知らせ

附属施設「ふるさと館田子倉」では下記企画展を開催中です。  
皆様のお越しをお待ちしております。

写真展「この写真、どこ？だれ？何してる？

—皆川文弥が撮った只見線が開通した頃の只見—

会 期：2022年8月11日(木)～2022年11月28日(月)

場 所：ふるさと館田子倉 2階会議室